

海洋深層水を利用した温度制御によるヒラメ養殖の実用化							
(要約) 海洋深層水を利用した温度管理下で、ヒラメ陸上養殖の可能性を検討した。そして、周年安定した飼育環境下で疾病の発生を防止し、初期の減耗に注意すれば比較的安定した生産を維持できた。							
沖縄県海洋深層水研究所					連絡先	098-896-8655	
部会名	水産	専門	養殖	対象	ヒラメ	分類	研究

[背景・ねらい]

海洋深層水の低温性を利用し、適正水温によるヒラメの養殖を行い、その効果を明らかにするとともに、出荷販売を行い、実用化の立証試験を実施する。

[成果の内容・特徴]

1. 海洋深層水を利用した温度管理下で、ヒラメは比較的安定して生産できる。
2. 種苗導入後 2 ヶ月間の減耗が大きいことから、この期間の対策が最終的な生残率を向上させるために重要である。
3. 海洋深層水を冷却源として利用することで電気代の節約になり、周年十分量の流水飼育が可能になる利点は大きい。
4. 陸上飼育で大きな問題となる疾病の発生もある程度防ぐことが可能になる。
5. 平成 14 年度ヒラメの出荷尾数は 1,898 尾、出荷量は 2,099 kg、平均体重は 1,106g、歩留まり 63.3 %であった。出荷金額は 3,306,500 円、販売単価は 1,575 円/kg で、支出合計は 8,595,224 円、差し引き 5,288,724 円の赤字であった (図 1,2)。
6. 平成 15 年度は体長 46.0mm の大型種苗 8,000 尾購入し、試験終了時の 279 日目に平均体重 725 g、82.5 %と高い生残率を維持した。平成 17 年 3 月末までに 5,000 尾余り、合計 837 万円強の販売実績を示した (図 3)。
7. 平成 16 年度は 8 月と 12 月に全長 47 ~ 49 mm の種苗を各 2,000 尾ずつ購入し、H17 年 3 月現在 8 月種苗は平均体重 350g で歩留まり 90 %、12 月種苗は 160 g で 93 %である。

[成果の活用面・留意点]

1. 活ヒラメの県内市場は限られた規模しかなく、県外市場は販売価格が安く、輸送コスト等から外国産ヒラメと競合する。市場を新しく開拓して、安定した経営を維持できるだけの生産規模を確保する必要がある。
2. 上記に関連して、複合魚種養殖による県内外市場規模の拡大も今後の検討課題である。

[残された問題点]

安定、効率化、省力化した生産システムの確立、市場の開拓

[具体的データ]

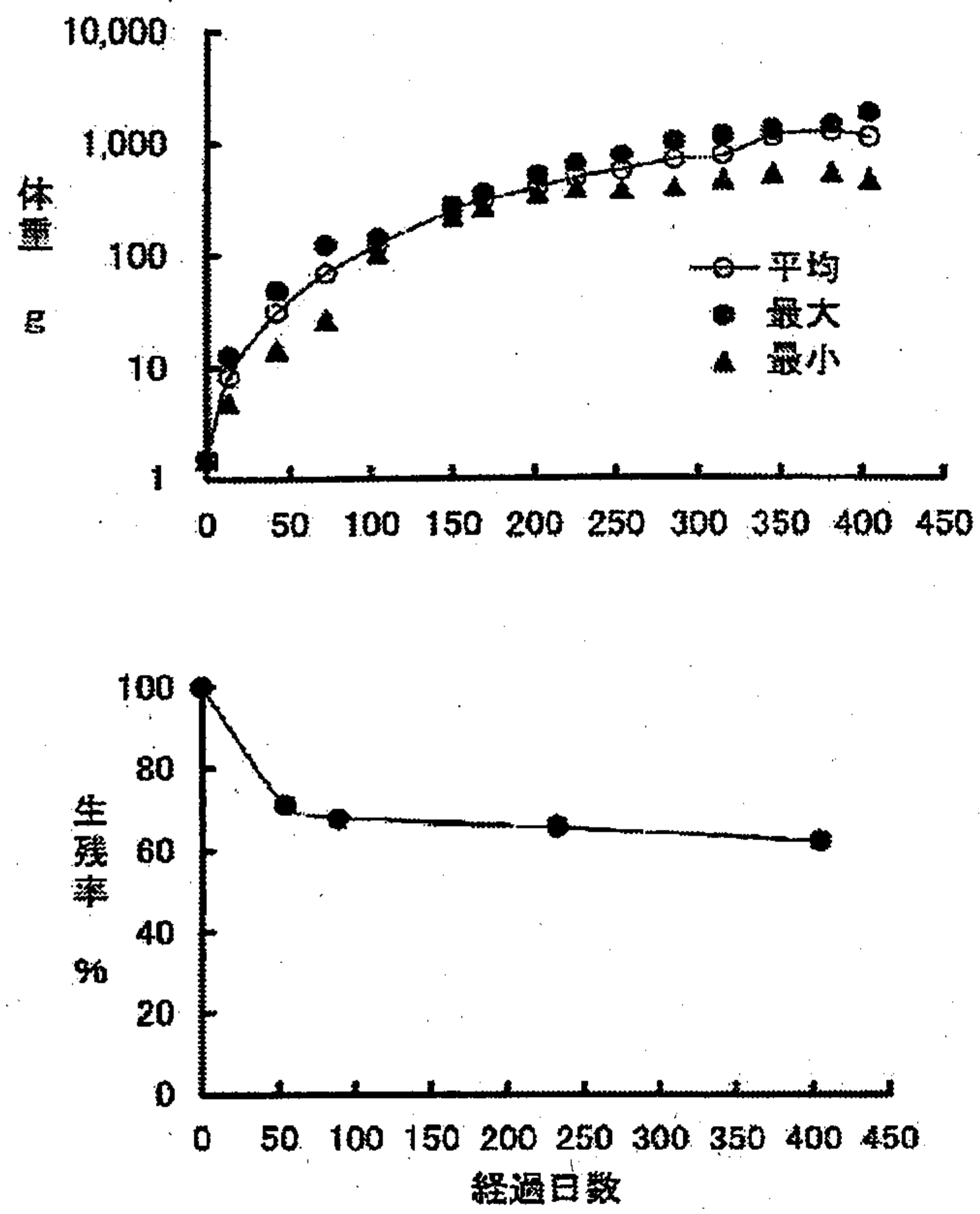


図1 平成14年度ヒラメの体重と生残率の推移

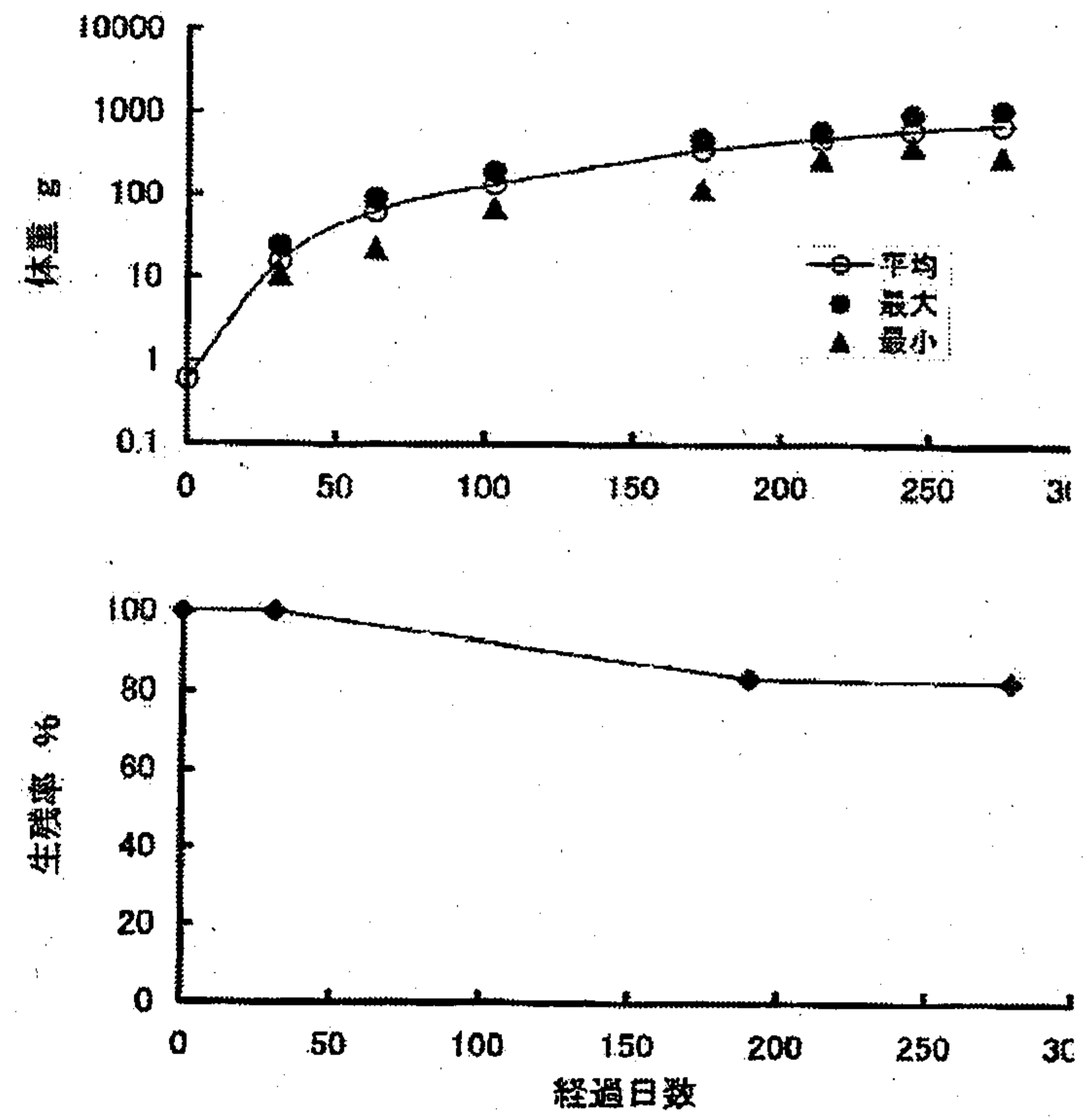


図3 平成15年度ヒラメの体重と生残率の推移

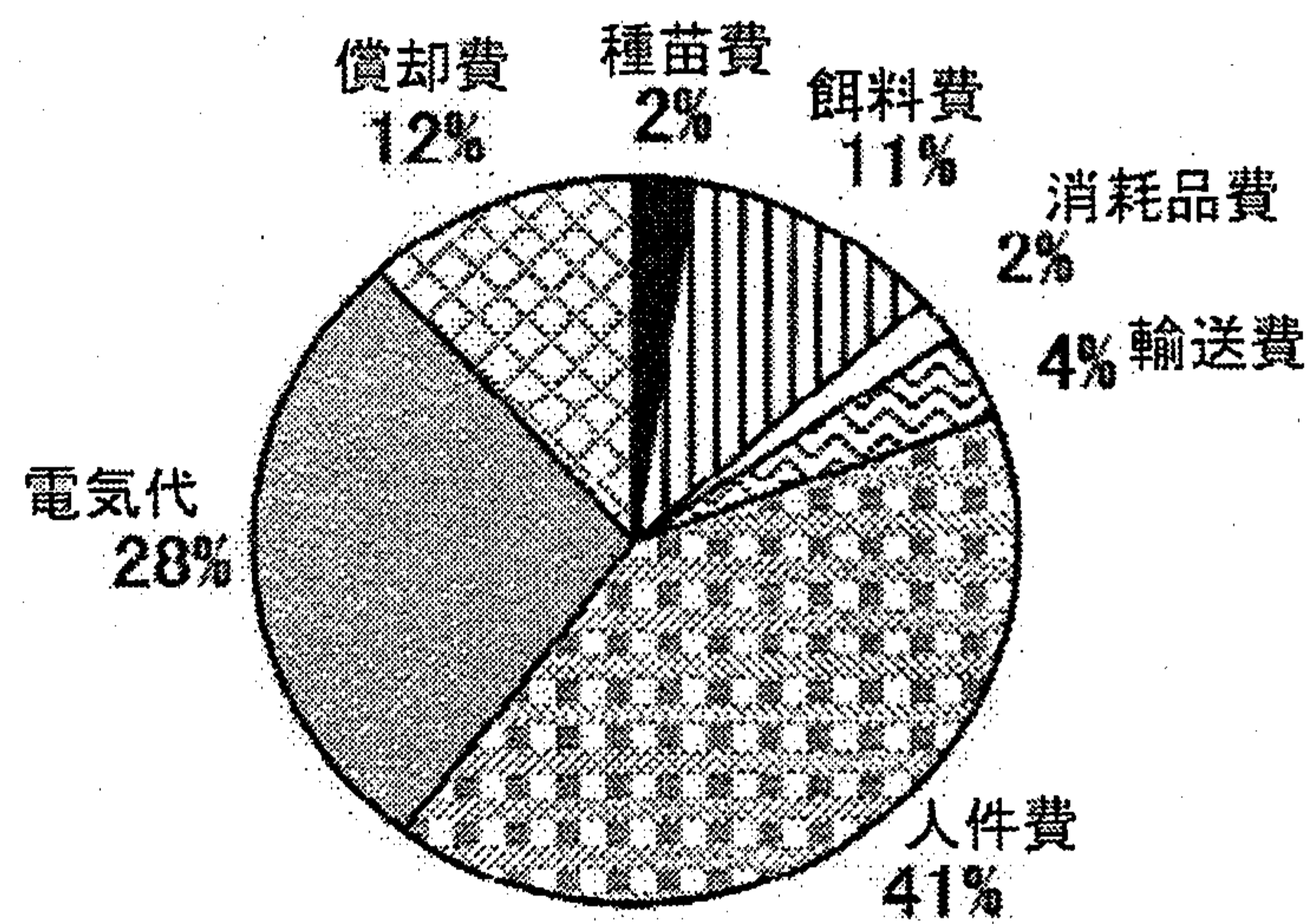


図2 平成14年度ヒラメ養殖の経費内訳

[その他]

研究課題名：海洋深層水を利用したヒラメ養殖の実用化試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成14～16年度

研究担当者：玉城英信、糸数直孝、宮城恵一、當間昭次、仲原淳、杉山昭博、譜久里長徳

発表論文等：平成14～16年度 沖縄県海洋深層水研究所研究業務報告